宮原　勇教授　略歴・業績

〈略　　歴〉

名古屋大学教員就任以降の略歴

平成20年４月１日	名古屋大学大学院文学研究科教授
平成29年４月１日～現在	名古屋大学大学院人文学研究科教授
令和３年３月31日	定年退職

学　　歴

昭和57年３月	京都大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻修了
昭和60年３月	京都大学大学院文学研究科博士後期課程哲学専攻研究指導認定退学
平成９年３月	京都大学　博士（文学）

所属学会

日本哲学会、日本倫理学会、比較思想学会、日本現象学会（全国選出委員、企画実行委員長、機関誌編集委員長）、中部哲学会（委員会委員、委員長）、関西哲学会（選出委員）、名古屋大学哲学会（委員会委員、委員長）

〈業　　績〉

著書（単著、分担執筆）

1　鍋島弘治朗、楠見孝、内海彰編『メタファー研究２：特集 時間のメタファー』ひつじ書房、2019年、分担執筆：「哲学における時間論の系譜―アリストテレスとアウグスティヌス―」、1–26頁
2　松澤和宏編『21世紀のソシュール』水声社、2018年、「記号と概念―現象学的認知主義からのソシュールの『一般言語学講義』の考察―」、125–138頁
3　宮原勇編『ハイデガー「存在と時間」を学ぶ人のために』世界思想社、2012年、序論「ハイデガーの根本的視座」、3–33頁
4　竹市明弘、小浜善信編『哲学は何を問うべきか』晃洋書房、2005年、第三章「理解と歴史」、133–152頁
5　『図説・現代哲学で考える〈心・コンピュータ・脳〉』丸善株式会社、2004年、154頁
6　『図説・現代哲学で考える〈表現・テキスト・解釈〉』丸善株式会社、2004年、151頁
7　竹市明弘・渡辺雄三・早川勇編『心とコミュニケーション―精神環境の探求（人間環境学シリーズ (2)）』勁草書房、1999年、分担執筆：「言語と沈黙―沈黙はどのような機能を果たしているか―」、185–195頁
8　『ディアロゴスの現象学：対話的言語行為の構造と原理』晃洋書房、1998年、iv, 221頁

9 竹市明弘・坂部恵・有福孝岳編『カント哲学の現在』世界思想社、1993年、分担執筆：「現象学の中のカント―二つの「統覚」概念―」、17–35頁
10 新田義弘・常俊宗三郎・水野和久編『現象学の現在』世界思想社、1989年、分担執筆：「身体―受肉せる主体―」、111–139頁
11 『現象学の再構築』理想社、1988年、246頁

翻 訳
1 U. ビュヒナー－レーマー著『ファニー・メンデルスゾーン＝ヘンゼル：時代に埋もれた女性作曲家の生涯』春風社、2015年、共訳者：米澤孝子、246頁
2 J. サール著『ディスカバー・マインド！：哲学の挑戦』筑摩書房、2008年、単独訳、415頁
3 ペゲラー編著『ハイデガーと実践哲学』法政大学出版局、2001年、担当：K. ヘルト「哲学の現代的状況―根本的気分についてのハイデガーの現象学―」127–167頁
4 竹市明弘編『超越論哲学と分析哲学』産業図書、1992年、担当：K. ハルトマン「超越論的議論」127–163頁、J. ヒンティッカ「超越論的認識のパラドックス」259–300頁、J. H. モハンティ「ヒンティッカ論文に対する論評」301–309頁、H. ポーザー「論理的言語ゲームの意味論は超越論的か」309–316頁
5 H. シュミッツ著『身体と感情の現象学』産業図書、1986年、担当：「身体性の現象学」33–94頁
6 M. リーデル著『解釈学と実践哲学』以文社、1984年、担当：「現代哲学における解釈学的転回」17–67頁
7 新田義弘、小川侃編『現象学の根本問題』晃洋書房、1978年、担当：M. ミュラー「現象学の歴史的位置」2–20頁

学術論文（全て単著）
1 McTaggart のテーゼ：「時間の非実在性」の真の意味、名古屋大学哲学会編『名古屋大学哲学論集 田村均先生ご退職記念特別号』、165–179頁、2018年 3 月
2 The Mental Lexicon and the Architecture of Encyclopedia, *Journal of the School of Letters* 13, Nagoya University, pp. 27–43, 2017–03.
3 言語コミュニケーションの基盤としての相互主観性、名古屋大学哲学教室編『哲学フォーラム』13、79–90頁、2016年 3 月
4 認識とカテゴリーについて、名古屋大学哲学教室編『哲学フォーラム』12、52–81頁、2015年 3 月
5 時間と生をめぐって―ハイデガーとフッサール―、ハイデガー・フォーラム編『Heidegger-Forum』9 号、1–18頁、2015年 3 月
6 空間的位置の指示と「主観化」―認知言語学と現象学の交差するところ―、名古屋大学哲学会編『名古屋大学哲学論集』12、1–19頁、2015年 3 月
7 フッサール初期時間論の基本概念とアポリア (I)、名古屋大学文学研究科編『名古屋大学文学部研究論集』61、45–73頁、2015年 3 月

8　時間に関する現象学的・認知言語学的考察、名古屋大学哲学教室編『哲学フォーラム』11、61–84頁、2014年、３月
9　原子力時代の哲学知：ハイデガーを手がかりに、関西哲学会編『アルケー：関西哲学会年報』21、14–25頁、2013年
10　Subjectification について―現象学の立場からの考察―、ことば工学研究会編『ことば工学研究会：主観性とは？』37、59–61頁、2011年
11　主観の解体と自己の探求、中部哲学会編『中部哲学会年報』43、29–47頁、2010年
12　認知言語学の哲学的基盤―現象学の立場から―（第10回日本認知言語学会シンポジウム）、『日本認知言語学会論文集』10、631–645頁、2010年
13　認知言語学と現象学的言語論の可能性―イメージ・スキーマ理論と志向性分析の統合の試み―、名古屋大学哲学会編『名古屋大学哲学論集』9 、1–25頁、2009年４月
14　情報とコミュニケーション（シンポジウム：情報とコミュニケーション）、中部哲学会編、『中部哲学会年報』36、41–59頁、2004年
15　直示詞の機能と意味（その１）―フッサール『論理学研究』第一研究の根本的問題点―、フッサール研究会編『フッサール研究』創刊号、2003年３月
16　伝統文化とモダニティー（課題研究：伝統文化と近代化）、関西哲学会編『アルケー：関西哲学会年報』11、162–175頁、2003年
17　認知と言語についての新たな現象学―認知言語学と生態学的知覚論との対決を通じて―、『理想（特集 現象学の新しい転回）』理想社、667、66–78頁、2001年
18　類似性とカテゴリー――認知言語学での「カテゴリー化」（categorization）の理論とその批判的検討―、関西哲学会編『アルケー：関西哲学会年報』8 、12–22頁、2000年
19　自律的個人の存立基盤を問う、21世紀の関西を考える会編『あうろーら』8 、28–36頁、1997年
20　「実存」の根拠と悪の問題、京都大学大学院人間・環境学研究科、総合人間学部『人間存在論』刊行会編『人間存在論』3 、89–102頁、1997年
21　心身二元論とその前提、中部哲学会編『中部哲学会紀要』28、15–27頁、1996年３月
22　理性と根本悪、京都大学大学院人間・環境学研究科、総合人間学部『人間存在論』刊行会編『人間存在論』2 、31–41頁、1996年３月
23　ロゴスと歴史性―ガダマー解釈学の再構成の試み―、『愛知県立大学文学部論集（一般教育編）』45、123–152頁、1996年
24　ディスクルスのロゴスと行為のパトス、京都大学大学院人間・環境学研究科、総合人間学部『人間存在論』刊行会編『人間存在論』1 、123–136頁、1995年３月
25　Communicative Universals, in *The Monist* (An International Quarterly Journal of General Philosophical Inquiry), vol. 78, no. 1, Illinois, U.S.A., 1995, pp. 30–40.
26　現代ドイツの言語遂行論的哲学―ハーバーマスとアーペル―、河上倫逸編『歴史と社会』14、リブロポート、303–333頁、1993年１月
27　『聖なるもの』の現象学―宗教現象学についての方法論的考察―、日本現象学会編『現象学年報』5 、75–91頁、1990年３月
28　「コミュニケーションの現象学」の理念、『愛知県立大学文学部論集（一般教育編）』38、1–21頁、1990年２月

29 現象学の再構築に向けて、日本哲学会編『哲学』39、61–77頁、1989年 4 月
30 志向性と個体の同一性―フッサール現象学の新展開―、『理想』理想社、634、73–88頁、1987年 4 月
31 現象とロゴス、中部哲学会編『中部哲学会会報』19、11–22頁、1986年 3 月
32 経験の枠組と「意味」―超越論哲学のフッサール的形態―、『理想』理想社、632、138–149頁、1986年 1 月
33 人間存在と超越論的問題設定―ハイデッガーをめぐって―、『理想』理想社、626、216–228頁、1985年 7 月
34 認識の根底にあるものへの問い―フッサールにおける自我の問題―、関西哲学会編『関西哲学会紀要』19、57–62頁、1985年 2 月
35 『論理学研究』における普遍認識の問題、京都大学哲学論叢刊行会『哲学論叢』11、55–64頁、1984年 7 月
36 志向性・自我・身体―言語分析と現象学の接点―、『理想』理想社、612、210–224頁、1984年 5 月
37 志向性―述定作用の背後にあるもの―、日本哲学会編『哲学』34、162–172頁、1984年 5 月
38 超越論哲学としての現象学の可能性―フッサールにおける意味と形相の概念について―、日本倫理学会編『倫理学年報』33、69–83頁、1984年 3 月

その他の執筆

1 『中部哲学会年報』第50号にあたって、中部哲学会編『中部哲学会年報』50、1–4頁、2019年 7 月
2 第28回日本現象学会研究大会報告、日本現象学会編『現象学年報』23、27–29頁、2007年
3 現象学とエポケー―フッサールはデカルトの徒なのか、ピュロンの徒なのか―、京都大学出版会『西洋古典叢書月報』63、1–4頁、2006年 8 月
4 書評：河村次郎著『意識の神経哲学』萌書房、『図書新聞』(2719)、2005年 3 月
5 コミュニケーションにおける相互人格的承認、京都大学大学院文学研究科21世紀 COE プログラム『グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成―新たな対話的探求の論理の構築 Newsletter』11、4–6頁、2004年
6 書評：小川侃著『風の現象学と雰囲気』晃洋書房、『人環フォーラム』11、65頁、2001年 9 月
7 論評：丸山真男著『現代政治の思想と行動』、21世紀の関西を考える会編『あうろーら』(特別号)、119–123頁、2000年12月
8 特集「認知と言語」について（特集 認知と言語―認知言語学の新しい流れと現象学―)、日本現象学会編『現象学年報』15、1–6頁、1999年
9 廣松渉他編『岩波哲学・思想事典』岩波書店、担当：知識、1998年 3 月
10 論文：Communicative Universals (in: *The Monist*) の Abstract, in: *Review of Metaphysics* (A Philosophical Quarterly), 48 (4), pp. 959–960, 1995–06.

11　木田元他編『現象学事典』担当：認識、意味志向／意味充実、意味付与、一義性／多義性／複義性、形成体、指標と表現、孤独な心的生活、相関関係、存在定立、レアール／イデアール、レール／イデール、1994年 3 月
12　海外哲学展望：新たな進化論的認識論―ハンス・モーアの試み、『理想』理想社、635、140–143頁、1987年 7 月

口頭発表（すべて査読、ないしは招待）

1　ハイデガーへのフッサールの応答から見えるもの、第70回関西ハイデガー研究会、京都大学大学院人間・環境学研究科、2019年12月
2　“Japan and the Cultural Disarmament of Philosophy:” The European Network of Japanese Philosophy (ENOJP), The Second ENOJP Conference, Université libre de Bruxelles (ULB) in Brussels, Belgium, 2016–12.
3　Destruction of Subject and Quest for Self: The Fundamental Differences between Nishida and Watsuji, in: The European Network of Japanese Philosophy (ENOJP) The Second ENOJP Conference, Université libre de Bruxelles (ULB) in Brussels, Belgium 2016–12.
4　主観の解体と自己の探求、比較思想学会東海地区研究会、2016年 7 月
5　時間と生をめぐって―ハイデガーとフッサール―、ハイデガー・フォーラム、第九回大会、東洋大学、2014年 9 月
6　原子力時代の哲学知：ハイデガーを手がかりに（課題研究／科学技術文明と哲学知）、関西哲学会第六十五回大会、名古屋大学、2012年10月
7　認知言語学の哲学的基盤―現象学の立場から（共通テーマ：認知言語学の科学的・哲学的基盤）、日本認知言語学会第10回全国大会、シンポジウム提題者、京都大学吉田キャンパス、2009年 9 月
8　コミュニケーションにおける相互人格的承認、京都大学大学院文学研究科21世紀 COE プログラム『グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成 新たな対話的探求の論理の構築』第12回研究会、会場：京都大学、2004年 7 月
9　ハーバーマスに対する特定質問者、ハーバーマス・シンポジウム『正義と法と民主制のディスクルス』主催：比較法制研究所、1993年 3 月
10　An Idea of the Phenomenology of Communication, Japanese / American Conference on Phenomenology, Seattle University, U.S.A. 1991–03.
11　現象学の再構築に向けて、日本哲学会 第48回大会、会場：上智大学、1989年 5 月
12　現象とロゴス、中部哲学会年次大会、会場：南山大学、1986年 9 月
13　意味の諸相（シンポジウム「意味の問題」提題）、日本現象学会第 8 回大会、会場：大谷大学、1986年 5 月
14　認識の根底にあるものへの問―フッサールにおける自我の問題―、関西哲学会第37回大会、会場：徳島大学、1984年10月
15　現象学的自我論の再検討、日本現象学会第 5 回大会、会場：東京大学、1983年 5 月

競争的資金

1 時間意識とそのメタファー的概念化に関する哲学的研究、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、研究代表者、2020年 4 月～2023年 3 月
2 フッサール初期・中期時間論の分析とその認知言語学的展開、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、研究代表者、2015年 4 月～2018年 3 月
3 言語における「相互主観性」に関する現象学的、認知言語学的研究、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、研究代表者、2012年 4 月～2015年 3 月
4 ディスコースにおける概念化と言語化の認知言語学的考察：エモーションの役割、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、研究分担者、2009年 4 月～2011年 3 月
5 認知言語学的イメージ・スキーマ理論の現象学的基礎付けの試み、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、研究代表者、2009年 4 月～2011年 3 月
6 「いのち・からだ・こころ」をめぐる現代的問題への応用現象学からの貢献の試み、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)、研究分担者、2006年 4 月～2008年 3 月
7 概念形成へのメタファの関与に関する現象学的、認知言語学的研究、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、研究代表者、2006年 4 月～2008年 3 月
8 テクスト理解過程にみる概念化の認知語用論的研究とその現象学的考察、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、研究分担者、2006年 4 月～2008年 3 月
9 新資料・新研究に基づく、フッサール現象学の国際的研究の新しい地平の開拓、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)、研究分担者、2002年 4 月～2004年 3 月
10 言語カテゴリーの生成に関する現象学的、認知言語学的研究、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)、研究代表者、2002年 4 月～2004年 3 月
11 言語コミュニケーションと相互主観性に関する現象学的研究、日本学術振興会 科学研究費助成事業 奨励研究 (A)、研究代表者、1990年 4 月～1991年 3 月
12 生命概念の現象学的研究、科学研究費助成事業 総合研究 (A)、研究分担者、1989年 4 月～1991年 3 月
13 現象学における「人間存在」と「意味」の理論に関する研究、日本学術振興会 科学研究費助成事業 奨励研究 (A)、研究代表者、1988年 4 月～1989年 3 月

宮　原　　勇　　教　授